

第2章 地形・地質概要

2-1 地形・地質概要

本建設地は、三重県津市雲出鋼管町地内の雲出川古川左岸の三角州地帯にあり、伊勢湾南部臨海地帯に位置している。

本地盤は第三紀鮮新世に堆積した奄芸層群が基盤をなし、その上位に第四紀更新世に堆積した洪積層および完新世に堆積した沖積層が分布する地層構成となっている。本調査地が位置する伊勢湾南部臨海低地地帯の地質層序表及び伊勢南部臨海低地地帯の地質状況を以下に示す。

表 2-1-1 伊勢湾南部臨海低地地帯の地質層序表

		地層名	地質学的分類	時代区分	記号
第四紀	完新世	沖積層	富田浜層	上部砂礫層	As
			四日市港層	上部粘土層	Ac
	更新世	洪積層	伊勢神戸層 平田層	下部砂礫層	Dsg
			古伊勢湾層	下部粘土層	Ds
第三紀	鮮新層	第三紀層	奄芸層群	第三紀層	T
	中新層		一志層群		

出典：「伊勢湾南部臨海地帯の地盤」建設省計画局・三重県 P.1 参照

伊勢湾南部臨海地帯の地盤は、地表部から沖積層、洪積層、第三紀層の順に堆積している。

沖積層は、雲出川等の河川営力により運搬・堆積された三角州を形成する陸性の堆積物と沿岸流によって作られた砂州・砂丘等の砂層から構成される富田浜層が分布し、その下位には海進期に堆積・形成された軟弱な海成粘土である四日市港層が分布している。

この沖積層下位の洪積層は、更新世に形成された伊勢神戸層、平田層、古伊勢湾層が位置する。さらに下位には第三紀層であり、基盤をなす奄芸層群が分布している。

以下、各層の特徴について示す。

《 沖 積 層 》

○ 富田浜層（上部砂礫層）

伊勢湾南部臨海地帯の地表部に連続性良く分布する地層で、一般に層厚 10m 以下で大部分が細～中粒砂により構成される。ただし、下部ではシルト・粘土を混入し、シルト層を薄層に伴ったり、レンズ状に挟む場合があり、四日市港層に漸移する傾向にある。

○ 四日市港層（上部粘土層）

臨海部で富田浜層の下位に分布する層で、一般に層厚は 5～10m で主に粘土～シルトにより構成される。また、腐植土を伴い、硫化水素臭が強い地層であり、貝化石を多量に含んでいる。時には、層厚 1～2m の砂層を挟んだり、下部では砂層になる場合もある。本層は三雲町・津市付近でよく発達し、海に向かって厚くなる傾向にあり、内陸部では消失する傾向にある。

《 洪 積 層 》

○ 伊勢神戸層（下部砂礫層）

伊勢湾南部臨海地帯に連続性良く分布する層で、灰色～青灰色を呈する砂礫を主体に構成され、部分的に砂質土・粘性土層を挟在する。層厚は 10～20m の範囲内にあるのが一般的である。

この砂礫は、 $\phi 20\sim 40$ mm 程度の花崗岩礫と、そのマトリックスを充填する花崗岩質砂を主体に構成される。

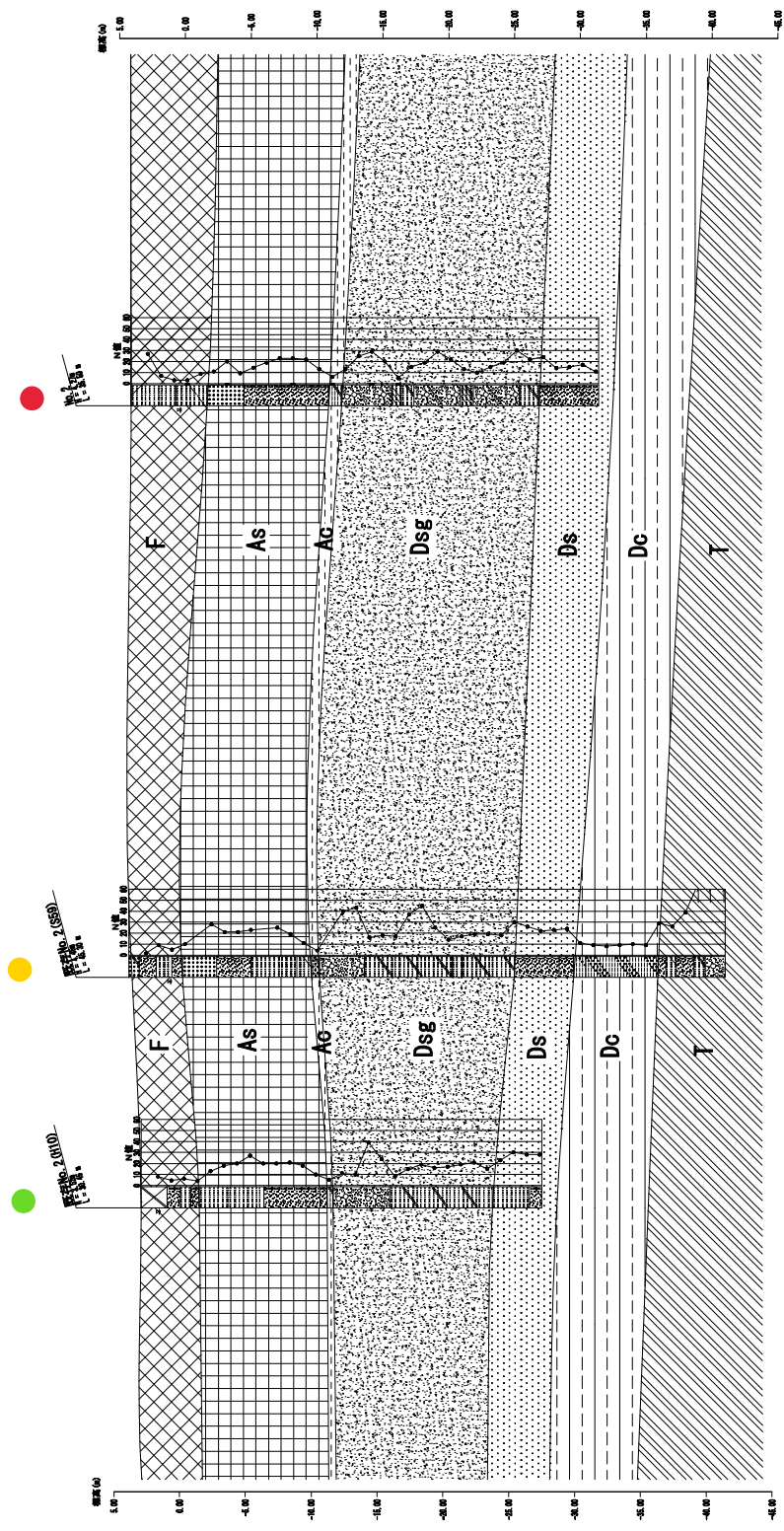
○ 古伊勢湾層

基盤をなす奄芸層群の上位に層厚 5～10m 程度で分布する層で、シルトもしくは砂混じり粘土を主体とし、貝殻片を多量に含んでいる。ただし本層は、海岸部まで奄芸層群が発達している地域では全く存在せず、かなりの広範囲において欠如している。

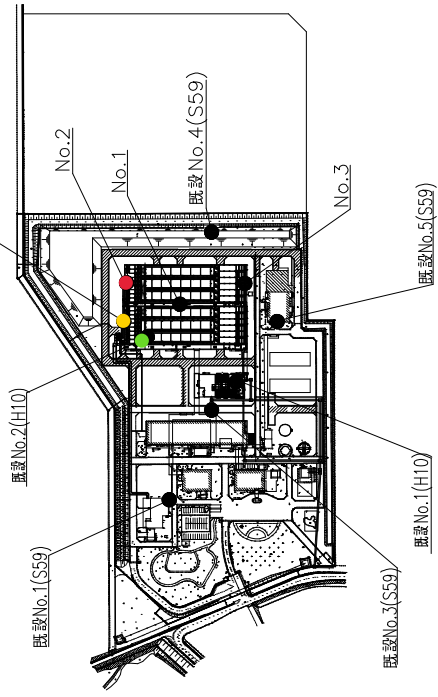
《 奄 芸 層 群 》

現在の伊勢湾～濃尾平野を含む地域に、中新世末から更新世前期にかけて存在した東海湖盆を埋積した河成～湖成堆積層である。その層相は、層厚数 m～数十 m の粘土層・シルト層・砂層・礫層が繰り返し累積するもので、層準的にも相方的にもはなはだ変化に富んでいる。

本層の累積層厚は、数百～千数百 m の所が多く、最大 2000m を越える所もある。

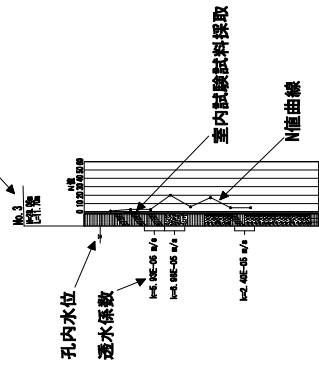


孔番号・調査深度・地盤高



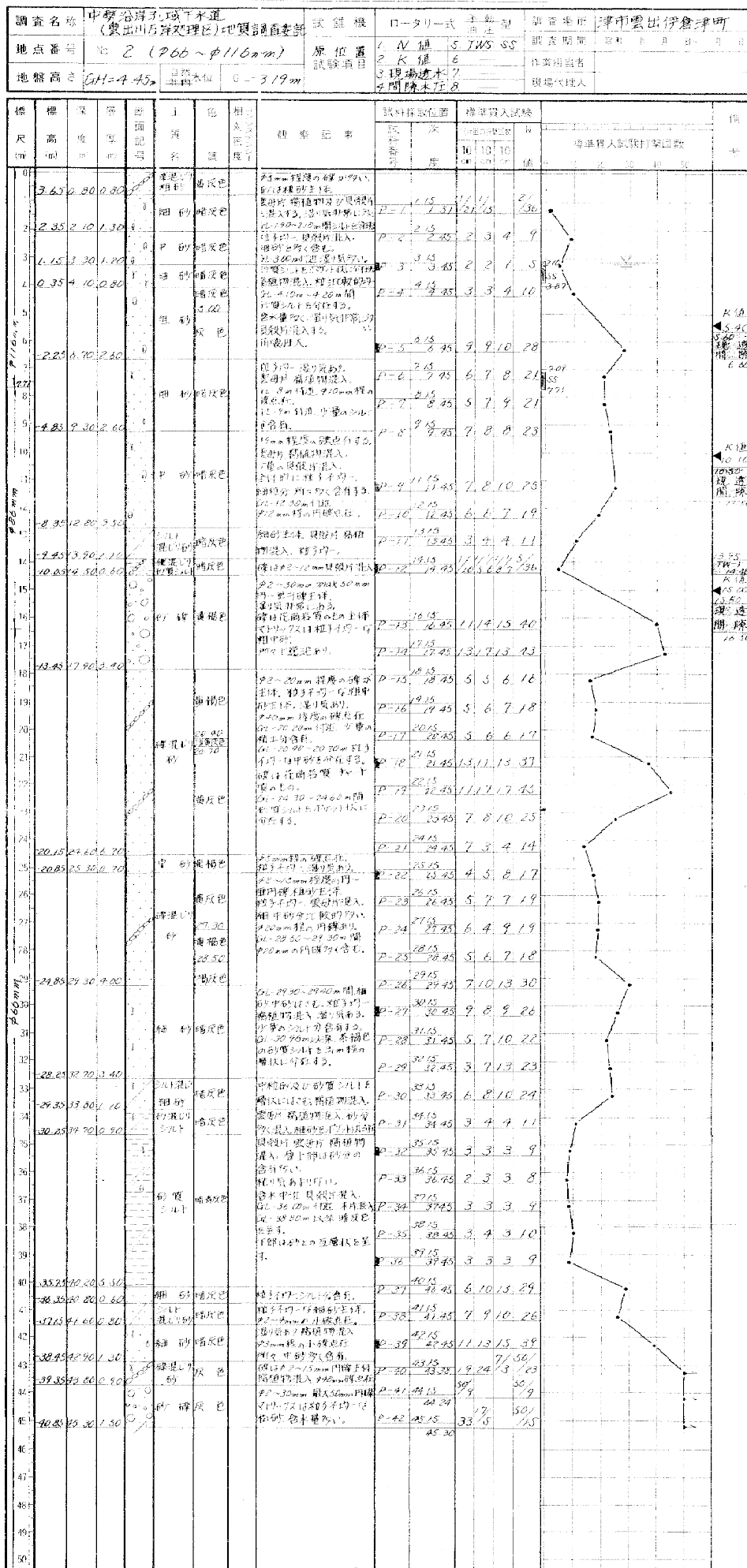
凡 例

地層区分	記号	層厚 (m)	N値
埋 土	F	5.60~5.80	3~27
外覆層	As	9.20~9.40	10~38
	Ac	9.05~9.40	5~22
	Dsg	14.1~15.0	5~54
洪積層	Ds	5.80	11~44
	Dc	6.20	9~13
第三紀層	T	8.48以上	32~60以上



件 名	中野川流域地下水道整備 栗山川左岸浄化センター (大田区東山) 地質調査業務委託
地区名	横浜市東区磯子町地内
図面名称	地質調査断面図
縮尺	1:300
図番	4/4
事務所名	株式会社地盤調査 下水道部

● 土質柱状断面図 (図一)



P-標準貫入試験
F-標準貫入試験
R-標準貫入試験

● 実測値
○ 30cm間隔値

□ 標準貫入試験
■ 標準貫入試験

中央開発株式会社
名古屋支店

PMU

豊田川左岸浄化センター実施設計業務

ポーション

शुद्धः

ボート名	No. 2		調査位置	三 角 島 津 市 内				シートNo	北緯
免注機関	日本下水海軍 借受支社				調査期間	平成10年11月 3日~10年11月 7日			東経
調査者名	平田孝雄 員 司 ン サ ル タ ャ ト 函 電話 (052-232-6034)		主任技師	現 場 代 理 人	コダマ 要 求 者		東二シ ノ買係者		
凡口深高	332m	角 180°	方 135°	30°	地盤勾配 水平0°	使用機種	ICR-50	ハンマー 落子用具	コンプーリー
総副港長	3015m	度 F°	向 180°	30°		エンジン	NFAD-8	ポンプ	V-6

[illegible]

●ボーリング柱状図

調査名 伊勢沿岸流域下水道集出左岸浄化センター(水処理施設)地質調査業務委

ボーリングNo. 1

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No. 2	調査位置	三重県津市雲出鋼管町地内	北緯	
発注機関	三重県津市地方民局 下水道部	調査期間	平成16年6月15日～16年11月10日	東経	
調査業者名	青森工業株式会社 三重営業所 電話(09-155-1654)	主任技師		ボーリング責任者	
現代理人	コア鑑定者	試験機	東邦地下工機 D-1	ハンマー	自動落下付
使用機	エンジン	ヤンマー NFD-9R	ポンプ	カノボーリング V-6	
孔口標高	4.27m	角	180° 90° 0° 90° 180°	方	北 0° 270° 90° 東 0° 180° 南
総掘進長	35.50m	度	0° 90° 180°	向	北 0° 270° 90° 東 0° 180° 南

